

【記念講演会】 テーマ：最近の内外情勢と政治課題

講師：自由民主党幹事長 二階 俊博 先生



過去を知り、未来志向で手を取り合う日韓へ

私は先般、総理特使として韓国を訪問し、文在寅大統領をはじめ関係者等と話し合いをしてまいりました。当初、会談は30分の予定でしたが、いざ行くと1時間に渡り、終始笑顔で一生懸命にお話くださった文大統領の様子からも、「今後の日韓関係は前向きに進んでいくことができる」と感じております。例えば日韓合意の件、これは多数の国々で評価されている国際的な合意ですから、我々としては着実に実行したい。一方で韓国側は、多くの国民が情緒により受け入れることができていません。これは大統領も認識していて、「時間をかけて対処していきたい」と仰っていました。実用はなかなか簡単ではありませんが、同時に未来志向で話をしていくことが大事です。悪口の言い合いをしていても、何の進歩も得られません。北朝鮮の核保有問題についても、引き続き日韓で緊密に連携し、お互い納得がいくまで話し合う必要があります。よく「圧力をかける」と言われますが、私はそれよりも話し合いのチャンスを掴むことが大事だと思います。特に、韓国は北朝鮮と国境を接し、お互いの国に親族や友人・知人も多

い。この問題は我が国同様、韓国国民の生存がかかっているのです。それをしっかりと認識し、対処しなければなりません。また、観光交流についても、来年の平昌オリンピック、2020年の東京オリンピック・パラリンピックという世界的なイベントを契機に人的交流を活発化すること、そして、日本が立候補している2025年の大阪万博への積極的な支持を要請し、文大統領からも前向きな回答をいただきました。2012年の韓国・麗水万博の際、私は万博担当として一生懸命協力しましたが、日韓の付き合いはなかなか難しいものがありました。それが、今回の訪韓の帰り際、麗水万博の委員長はじめ関係者の皆さんが「あなたには麗水万博で協力して貰ったので、恩返しをしなければ」と仰ったんです。日韓はこれから、恩返しをしたり、して貰ったりする関係になっていくべきではないかと思えます。

今回の訪韓で最初に訪問したのは、木浦というところでした。ここには高知県出身の田内千鶴子さんが設立し、韓国人の夫と一緒に3,000人余りの孤児を育てた孤児院『共生園』があります。子どもたちに愛情を注いだ彼女は多くの韓国人に慕われ、信頼されていました。日韓問題というとすぐ目くらまを立てて険悪になりがちですが、日本人の中にも大勢の韓国の孤児を育てた人がいるのです。また、私の郷里・和歌山県にも韓国との逸話があります。朝鮮出兵の際、紀伊の雑賀鉄砲隊が朝鮮へ攻め入りましたが、攻めてくる様子がほとんどない韓国の人々を見て、雑賀鉄砲隊は「この戦いに義はない」と宣言し、戦争を放棄しました。その後、彼らは韓国に鉄砲の性能を伝えた功績として土地を与えられ、今も300人程の子

孫がそこに住んでいます。このような“日韓の間に生まれた良い話”を、多くの人はあまりにも知らなさすぎる。日本と韓国の良いお話を、広く多くの国民の皆さんに知っていただくこと、そのための努力が大切だと感じました。

相手を理解し、許し合う日中関係づくり

中国の習近平国家主席にお目にかかる際、私は総理から親書をお預かりしました。話の取り違えを防ぐため、私はいつも親書を渡すなり「まずは是非、こちらを読んでください」とお願いするのですが、習主席は直ちにその言葉を理解して一生懸命読んでくださいました。私はこういった細やかなやりとりを通して相互理解を深め、その努力を知らせていただけそうだという印象を受けました。日本と中国は隣国同士。先程の韓国も含め、少々小競り合いはあっても、仲良くする以外に方法はありません。それをしっかりと胸に刻んで全力を尽くす、そういう共通の大きな目標に向かって、お互いに了解し合い、許し合って、前に進んでいく。安倍総理が提唱する『戦略的互惠関係』もこの考えです。かれこれ40年程前、私は中国との付き合い方について、静岡県出身の政治家・竹山祐太郎氏にご指南いただいたことがあります。竹山氏は「中国と日本は波長が違うということを理解しなければいけない」と仰っていました。中国人は国土が広大で歴史も長く、人口も多いからか、物事を長い目で見ると習慣がある。中国はゆったり構えています。対等に接していくためには、相手の心情を十分に理解することが重要で、長い目で物事を見る国だということを知り、それを理解しながら、前へ向かって取り組むことが大切です。

先日、29ヶ国の首脳を含め総勢1,500人が出席した『一带一路フォーラム』が開かれ、私も出席してまいりました。中国主導の一带一路構想は日本の技術・環境性能・安全性を売り込む大きなチャ

ンスですが、一方でAIIBを警戒する声も当然あります。しかし、中国の取り組みについていくら蚊帳の外から叫んでも、効果は期待できません。集まりの真ん中に入った上で、日本としての考えを訴えるべきだと思います。

農業問題をもっと理解するために

日本の政治を語る上で、非常に重要なものの一つが農業です。近年、日本はお米が余って困っていますが、かといってお米がなくては生きていきません。そんな切っても切れない関係にありながら、国内での農業問題に対する理解・関心が低いのではないかと日々感じています。農業問題を国民の皆様に広くお知らせするためには、まず我々自身がこの問題を十分理解し、自分事にして考えるべきだと私は思います。米づくりのことを知らない人が、農業を語ってもしようがないですね。そこでJAの皆様にご協力を仰ぎ、「自民党として田植えを勉強し、農業に親しもう」ということで、機械を使わない昔ながらの農業を実践されている田んぼをお借りして、実際に農業を行いました。100名程の規模ではありますが、農業の大切さを肌で感じて、真剣に取り組むための基礎をつくる。こうして一歩ずつ前進することも大事だと思うのです。このように、皆様のご理解・ご支援にお応えできるよう、一生懸命取り組んでおりますので、党の姿勢をご理解いただけますと幸いです。

